

1. 木質バイオマス関連情報

■東京証券取引所（東京）、2023 年 10 月を目途に正式にカーボン・クレジット市場開設へ。2050 年カーボンニュートラル目標実現のため、今年 2 月に政府が「GX 実現に向けた基本方針」を閣議決定。カーボンプライシングの制度設計として「排出量取引制度」の導入が示されており、2023 年度からの試行取引、2026 年度からの本格稼働が予定されている。同取引所は 2022 年度に経産省から「カーボン・クレジット市場の技術的実証等事業」を受託し、2022 年 9 月より取引実証を実施。ここで得た知見と市場運営の経験を活かし、カーボン・クレジット市場を開設する。これに先立ち、7 月 3 日に市場運営の規則となる「カーボン・クレジット市場利用規約」等を公表するとともに、「カーボン・クレジット市場参加者」の登録申込み受付も開始【日本取引所グループ：2023/07/03、経産省：2022/09/22、2023/02/10】

<https://www.jpx.co.jp/equities/carbon-credit/index.html>

<https://www.meti.go.jp/press/2022/09/20220922001/20220922001.html>

<https://www.meti.go.jp/press/2022/02/20230210002/20230210002.html>

■東濃ひのき製品流通協同組合（岐阜）、整備を進めてきた間伐材や建築廃材などを木質チップに再資源化する新施設「RenaWood（レナウッド）白川」が完成。2004 年 1 月 15 日より 19 年間「森の発電所（発電出力 600kW）」を稼働させてきたが、施設の経年劣化が進んだため今年 2 月 5 日に操業停止。廃木材を破砕して再資源化チップとして販売する事業に転換した。3 月にはバイオマス施設の一部解体を行う工事を開始するとともに製造チップをストックするためのチップヤード建設工事を開始し、7 月 7 日には竣工式を開催【中日新聞：2023/07/08、東農ひのき製品流通共同組合：2023/02/06、2023/03/23、2023/07/11】

<https://www.chunichi.co.jp/article/724740>

<http://tono-hinoki.jp/archives/2743>

<http://tono-hinoki.jp/archives/2771>

<http://tono-hinoki.jp/archives/2871>

■佐賀県東松浦郡玄海町で進むバイオマス産業都市構想。その中核となるバイオガス発電所が 7 月 23 日に竣工。町の基幹産業は「佐賀牛」肥育などの畜産業。それら家畜の排せつ物を活用して発電し、残渣は堆肥や敷料にして循環を図る。発電施設は民間事業者などが出資した「玄海バイオガス発電（株）」（佐賀）が運営。原料となる排せつ物の供給や堆肥、再生敷料の受け入れ、民間事業者や地元区長、畜産部会長らが出資する「玄海バイオ（株）」（佐賀）が行う。原料は 500 円/t で納入し、畜産農家が運搬などを担う。計画では排せつ物は最大約 190t/日受け入れ、発電能力は 1,200kWh で一般家庭約 4,500 世帯分の年間消費量を賄う。FIT により九州電力（株）（福岡）に売電し、年間の売り上げは約 3 億円の見込み。建設費は約 24 億 5,000 万円（税別）。CO₂の削減量は約 3,705t/年の見込み。堆肥や再生敷料の売り上げは約 3 千万円/年を見込む。畜産単体のバイオガス発電施設としては、北海道を除くと全国最大規模。売電は今夏中に開始予定【佐賀新聞：2023/07/20、TBS NEWS DIG：2023/07/23、玄海町：2020/04/28】

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/1075187>

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/619433>

<https://www.town.genkai.lg.jp/soshiki/7/35862.html>

■FIT で運営している太陽光発電所やバイオマス発電所を、FIP に移行するケースが徐々に増加。FIP とは「フィードインプレミアム（Feed-in Premium）」の略称。FIT 制度のように固定価格で買い取るのではなく、再エネ発電事業者が卸市場などで売電したとき、その売電価格に対して一定のプレミアム（補助額）を上乗せするが、収入は市場価格に連動させる制度で、需要ピーク時（市場価格が高い時）に蓄電池の活用などで供給量を増やすインセンティブがある。2022 年度に FIP 制度が始まり、6 月 1 日時点で移行したケースが 74 件。新規で認定された 60 件との合計出力は約 100 万 kW に。移行した事業者は、FIT より FIP

で売電した方が収益性を期待できると判断したとみられる【電気新聞：2023/07/21、資源エネ庁】

<https://www.denkishimbun.com/archives/299445>

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/data/kaitori/2023_fit_fjp_guidebook.pdf

■ENGIE スペイン(スペイン)と花王コーポレーション SAU(同、以下「花王スペイン」)が、バルセロナのオレッサ・デ・モンセラットにある花王スペインのケミカル工場内に森林認証を受けたバイオマスを燃料とする新しい熱利用プラントの建設・試運転・15年間の運転およびメンテナンスを行う契約を締結したと発表。ENGIE社(フランス)は低炭素エネルギーとサービスにおける世界的な企業で、ENGIE スペインは再生可能エネルギー資産1,600MWを含む設備容量約3,600MWを擁するスペイン国内第6位の発電企業。新しいバイオマスプラントはこれまで同工場に導入されていた天然ガスを一次エネルギー源とする従来型ボイラに代わるものであり、工場での必要蒸気量の95%を供給する予定【花王(株)：2023/07/21】

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20230721-002/>

■北米、欧州、アジアなど世界で熱波、豪雨が猛威。命に危険が及ぶ高温が続き、山火事や記録的な水害も発生。世界気象機関(WMO)のターラス事務局長は「地球温暖化の影響で異常気象の頻度は増しており、残念ながら『新たな日常』になりつつある」と警鐘を鳴らす。温暖化の影響を研究している英インペリアル・カレッジ・ロンドンのフリーデリケ・オットー上級講師は「温暖化により熱波の発生確率は高まり、より深刻化する。豪雨の確率も上昇する」と説明【JJI.COM：2023/07/23】

<https://www.jji.com/jc/article?k=2023072200267&g=int>

■アフリカ西部、コートジボワールの南部コモエ地方にあるアボワツで、中国の発電所建設大手「中国能源建設集団」傘下の「中能建国際集団」と「中能建建築集団」の共同企業体(JV)が、建設するバイオマス発電所プロジェクトの定礎式を実施。発電所の出力は46MW。主にパーム油生産過程で出るヤシの葉柄(ようへい)などの廃棄物を燃料とする。コートジボワール国内に348億Wh/年のクリーンエネルギーを供給し、約170万人/年の電力需要問題を解決する見込み。同プロジェクトは2022年8月に契約調印完了。フランス電力(EDF)が投資を主

導。2025年に完成し、発電を開始する予定【新華社通信：2023/07/24】

<https://nordot.app/1056090250363584962?c=113147194022725109>

■(一財)電力中央研究所(東京)、2030年頃までに固体炭素での発電反応などを利用する「ダイレクトバイオマス燃料電池(DBFC)」を実用化へ。DBFCは反応容器内で円筒型の電池セルと林地残材、流木、おが屑、農業廃棄物等の未利用バイオマス燃料を粉砕したものを直接接触させることで、バイオマス燃料の炭素と反応し電気が発生。バイオマスは反応容器内で炭化。発生したガスのうち水素、一酸化炭素を電池セルで取り込み、化学反応でさらに発電させるという仕組み。市街地、山間地といった様々な環境下で地産地消型、資源循環型の発電システムが構築できるとして期待される【電気新聞：2023/07/25】

<https://www.denkishimbun.com/archives/300154>

■出光興産(株)(東京)、マレーシアでバイオマス燃料製造事業を進めていた欧州のベンチャー企業TG2® GmbH社(スイス、以下「TG2社」)や関連会社との協業を解消したと発表(7月25日)。出光興産は火力発電所で石炭と混焼できるバイオマス燃料はCO₂排出低減に資するとして、同国でパーム椰子空果房(EFB)からバイオマス燃料を製造するプロジェクトをTG2社およびその関連会社と進めてきた。同社の広報担当者によると、協業解消に伴い、当初2022年後半の商業化を目指していた同バイオマス燃料プロジェクトはいったん白紙に。協業解消の理由についてはコメントを控えるとしている。プロジェクトでは2030年に300万t/年の生産体制を構築することを目指してきたが、TG2社とのプロジェクト白紙化による将来的な生産能力目標への影響は限定的であり、引き続き同国でのEFB燃料製造・利用検討を実施していくとしている【出光興産(株)、会社四季報ONLINE：2023/07/25】

<https://www.idemitsu.com/jp/whatsnew/2023/230725.html>

<https://shikiho.toyokeizai.net/news/0/689591>

■国際再生可能エネルギー機関(IRENA)、世界の再生可能エネルギー統計報告書の2023年版を発表(7月6日)。報告書は2013~2022年の発電容量、2013~2021年の実際の発電量、および2020~2021年の150以上の国と地域の再生可能エネルギー収支に関するデータセットを提供。2021年の世界の再

生可能エネルギー発電量は7,858TWhで、2020年比5.4%増加。電源別割合は水力発電55%、風力発電23%、太陽光発電13%、バイオマス発電8%、地熱発電1%。地域別再生可能エネルギー発電量ではアジア44%、欧州19%、北米18%、南米11%となり、国別では中国、米国、ブラジル、カナダ、インド、ドイツ、ロシア、日本、ノルウェー、英国の順になる。IRENAのサイトより報告書全文をダウンロード可【ESG Journal：2023/07/25、IRENA：2023/07/06】

<https://esgjournaljapan.com/world-news/30601>

<https://www.irena.org/Publications/2023/Jul/Renewable-energy-statistics-2023>

■富士屋ホテル（株）（神奈川）、同社仙石ゴルフコースにバイオマスボイラを導入。7月22日（土）より稼働開始。これまではクラブハウスの浴場やレストランの給湯など、運営にかかわる燃料は重油を使用していたが、ウッドチップを燃料とするオーストリアのETA社製ボイラ（240kW）を2台導入。蓄熱タンク（1,100ℓ）を8台連結しており、ゴルフ場内クラブハウス浴場およびレストラン給湯に利用する。燃料には箱根山系の間伐材をチップ化したものを利用。年間のCO₂削減量は約284tの見込み。経産省の「令和4年度先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金」採択事業【@Press：2023/07/27、カナロコ：2023/07/28】

<https://www.atpress.ne.jp/news/363579>

<https://www.kanaloco.jp/news/economy/article-1008127.html>

■広島県庄原市が前市長を提訴へ。同市の木質バイオマス事業頓挫に絡む住民訴訟の市の敗訴に伴い、市から約2億3,800万円の損害賠償請求を受けた滝口季彦前市長が、期限である7月28日までの支払いをしなかったと明かした。市は今後地方自治法に基づき、支払いを求めて前市長を提訴する予定【中国新聞デジタル：2023/07/28】

<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/339231>

■岩手県九戸郡野田村にある（株）野田バイオパワーJP（岩手）の野田バイオマス発電所敷地内で、7月31日午後2時10分頃火災発生。木材をチップに加工する破砕機のエンジン部分から出火し、約1時間20分後に鎮火。けが人はなし。同発電所の発電出力は13,000kW、年間発電量は9,6489万kW（約26,800世帯の年間電力消費量に相当）。地域から受け入れた林地残材

やバークをチップ状に加工する切削・破砕設備と、燃料倉庫・乾燥用ロータリーキルン、木質チップ、バーク、PKSを混載しボイラへ燃料を供給する貯留槽、オーストリアのアンドリッツ社製流動層ボイラ、タービン建屋、中央操作室、復水器が敷地内に立ち並ぶ。切削破砕設備と貯留槽、燃料倉庫はベルトコンベヤーでつながっており、ベルトコンベヤー付近から炎や煙が上がる様子が撮影されている。久慈署は被害状況等を調べるため、8月1日に実況見分を実施【デーリー東北：2023/07/31、（株）野田バイオパワーJP】

<https://www.daily-tohoku.news/archives/179081>

<http://www.noda-bio.jp/index.html>

■日工（株）（兵庫）と三機工業（株）（東京）が、廃棄処理をされていたタールを燃料に用いて排ガスを無害化する「タール燃料を利用した排ガス処理装置」を開発。木質バイオマス発電では有害な排ガスや木質タール等の産業廃棄物が発生するため、排ガスの無害化処理や産業廃棄物の処分が必要となる。これらの処理過程が発電事業における生産性・採算性を低下しているという課題に着目し、二社共同で装置を開発。同装置ではタールを燃料に再利用することから、タールのゼロエミッションが達成可能。既にこの装置を導入したNKCながいグリーンパワー（山形）の木質バイオマスガス化発電施設では、産業廃棄物を96%削減できただけでなく、化石燃料の代替として利用することで2,786t/年のCO₂削減に貢献。さらに2段燃焼方式を採用することで排ガスの水分量にかかわらず安定的な処理が可能となっている。同装置は7月28日に行われた（一社）日本産業機械工業会（東京）の第49回優秀環境装置表彰において、「日本産業機械工業会会長賞」を受賞【PR TIMES、（一社）日本産業機械工業会：2023/07/31】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000030.000081441.html>

<https://www.jsim.or.jp/commendation/>

■パワーエイド三重合同会社（三重）、7月26日にウッドピア松阪の隣接地で「パワーエイド三重シン・バイオマス松阪発電所」の地鎮祭を開催。同発電所は出力1.99MW。燃料には地元製材所から排出される端材等の木材チップのほか、近隣にあるホクト（株）（長野）三重きのこセンターでキノコを生産した後40～50t/日排出される「使用済み培地」、そして廃プラスチック系ごみ固形燃料（RPF）を使う。発電した電気はFITを利用せ

ず、ホクトが今年3月にオフサイト PPA サービス契約を締結した中部電力ミライズ(株)(愛知)を通じて三重きのこセンターに15年間供給される予定。年間発電量は約1,647万kWh、送電量は約1,515万kWh。このスキームによりホクトのCO₂排出量は5,700t/年削減できる見込み。発電所の総事業費は約26億円。そのうち6億円をGK-TKスキーム(合同会社と匿名組合を組み合わせた投資スキーム)による匿名組合出資で調達。20億円は(株)みずほ銀行(東京)をアレンジャーとする9行でのシンジケートローンで融資を受けた。発電所は2023年10月17日に起工式を予定。土木・建設工事は2023年10月頃開始予定で、2025年1月に運開予定【メガソーラービジネス:2023/08/07、ホクト(株):2023/07/26、パワーエイド三重合同会社:2023年】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/feature/00007/00089/?ST=msb&P=1>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/1379/tdnet/2314976/00.pdf>

<https://power-aid-group.co.jp/>

■東京都、「東京都エネルギー環境計画指針」を改正したと発表。東京都は、都内に電気を供給している小売電気事業者等を対象とするエネルギー環境計画書制度について制度強化に取り組んでおり、同指針を改正。引き続き都は、「2050年CO₂排出実質ゼロ」に貢献する「ゼロエミッション東京」の実現に向け、2030年までに再生可能エネルギーの利用割合を50%程度まで高めることを目指していくとしている。その他今回の指針改正の主なポイントには、制度対象事業者に対し報告・公表を求める再エネ電源に関する事項や、「非FITバイオマス発電所から再エネ電力を調達する場合は、持続可能性に配慮した燃料を利用する発電所から調達すること」といったことが含まれている。施行は2024年4月1日から【東京都環境局:2023/07/31】
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/07/31/26.html>

■(株)海帆(愛知)、「飲食店のフードロスを、再生可能エネルギー化」実現に向け、シンエネルギー開発(株)(群馬)と検証開始。グループ会社が運営する飲食店舗より発生したフードロスを以前より問題視していた同社は、2022年10月より開始した再生可能エネルギー事業でこのフードロスを有効活用できないか様々な視点から検討してきた。シンエネルギー開発に相談したところ、共同で再生可能エネルギーに転換できるか検

証し、事業化へ向けて推進していく事に。7月31日開催の取締役会で、シンエネルギー開発と①フードロスの総量の検証及び発生させることができるエネルギー量の検証、②フードロスを利用した再生可能エネルギー転換後の発電効率の検証、③フードロスを利用した再生可能エネルギー発電施設の建設計画・開発に係る業務委託契約を締結。この契約に係る費用は500万円の見込み。発電設備の立地選定や建設が可能となった場合は別途公表すること【(株)海帆:2023/07/31】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3133/tdnet/2318051/00.pdf>

■エア・ウォーター(株)(大阪)グループ会社の(株)日本海水(東京)、8月1日より福岡県苅田町にて「苅田バイオマス発電所」の営業運転を開始。製塩業界におけるリーディングカンパニーであり、電力事業にも参入している日本海水が中心となり、2019年6月に発電所の建設・運転等を目的とした発電事業会社「(株)日本海水TTS苅田パワー」(東京)を設立。出資比率は日本海水が68%、(株)ティーティーエス企画が30%、(株)タクマ(兵庫)が2%。2021年4月より同発電所の建設工事に着手してきた。発電出力は5万kW、発電した電力はFITを利用し電気事業者へ売電される予定。PKSや建設廃材、樹皮等の国内材(28万t/年)を燃料とし、燃料供給については供給元の民間企業と長期安定供給契約を締結済み。タクマはこの事業で2019年にプラントの建設工事を、2022年にはプラント運転維持管理業務(O&M, Operation & Maintenance)を受託。O&Mはタクマとグループ会社の(株)タクマテクノス(東京)が共同で、2023年~2043年までの20年間包括的に行う【エア・ウォーター(株):2023/08/01、(株)タクマ:2023/08/01】
<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news2063384691127284705.html>
<https://www.takuma.co.jp/news/2023/20230801.html>

■日鉄エンジニアリング(株)(東京)の「下水汚泥固形燃料化システム(ジェイコンビ®)」が、(一社)日本産業機械工業会主催の第49回優秀環境装置表彰において「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞。同システムは二軸ミキサと乾燥ドラムを用いることで、これまで主に埋立てや焼却により処分されてきた脱水汚泥を造粒乾燥し、汚泥の有機分をほぼ全量保持した高カロリー・低灰分の固形燃料を安定的に製造するもの。汚泥の熱分解を伴わないため、汚泥中の有機分の変動がシステムの運転に影響せず、幅広い含水率(70~85%)、多様な有機汚泥(消

化・未消化汚泥等)に対応可能。製造する固形燃料は JIS 規格に合致しており、火力発電所などで石炭等の代替燃料として全量有効利用できるほか、肥効性の高い肥料としての利用も可能

【PR TIMES : 2023/08/01、日鉄エンジニアリング (株)】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000052.000091727.html>

https://www.eng.nipponsteel.com/csr/report/environmental_solution/sludge_recycling_business.html

■ (株) タクマ (兵庫)、古里 FIC エネルギー合同会社 (岩手) 向けバイオマス発電プラントを受注。合同会社は (株) 古里木材物流 (岩手)、稲畑産業 (株) (大阪)、中部電力 (株) (愛知) が共同出資し設立。「矢巾発電所」は岩手県紫波郡矢巾町煙山に建設。古里木材物流が調達する岩手県の未利用間伐材や林地残材等の木質チップを 3 万 1,000t/年使用する見込みで、発電出力は 1,990kW。想定年間発電電力量は約 1,450 万 kWh (一般家庭約 5 千世帯分に相当) で、FIT 制度を活用し東北電力 (株) (宮城) に売電する。工事の開始予定は 2025 年 4 月、運開予定は 2026 年 1 月【(株) タクマ : 2023/08/03、中部電力 (株) : 2023/06/27、岩手日報 : 2023/06/28】

<https://www.takuma.co.jp/news/2023/20230803.html>

https://www.chuden.co.jp/publicity/press/1210930_3273.html

<https://www.iwate-np.co.jp/article/2023/6/28/144777>

■ 岩手県花巻市にある富士大学の学生寮に産官学が連携し、木質チップボイラ (130kW) を設置。給湯の熱源を石油やガスから、周囲に豊富な森林由来の木質バイオマスに置き換えた。2019 年夏にエネルギーの地産地消を目指し、地元で協議会を設立。富士大のコーディネートで行政や民間企業、森林組合が繋がった。2021 年度には林野庁補助事業「令和 3 年度木材需要の創出・輸出力強化対策のうち『地域内エコシステム』推進事業」にて「花巻市および周辺地域内エコシステムモデル構築事業」として地域協議会の運営支援を受けながら事業を実施。富士大学学生寮の木質ボイラ設置は、花巻市内の複数の施設でバイオマス熱利用システムの導入を進めた同事業の一環として行われたもよう。燃料は、公園の倒木を引き取ったり、大学近隣の製材所から県産の木材を安価に入手したりし、構内で薄いチップにして燃やす。強豪の硬式野球部員が使う風呂の湯を日々沸かしており、冬には寮の床暖房にも使用される予定【岩手日報 : 2023/08/07、(一社) 日本森林技術協会 : 2022/3 月】

<https://www.iwate-np.co.jp/article/2023/8/7/147474>

http://woodybio.jp/pdf/r3/r3_06_hanamaki.pdf

■ (株) タクマ (兵庫)、もがみバイオマス発電 2 (株) (山形) より 7MW 級バイオマス発電プラントの建設工事を受注。もがみバイオマス発電 2 は総合建築業を中心に再エネ事業など様々な事業に取り組む (株) 柿崎工務所 (山形) が設立したもがみバイオマス発電 (株) (山形) が設立。もがみバイオマス発電は、新庄中核工業団地に「もがみ木質バイオマス発電所 (発電出力 6,800kW)」を整備し、2018 年 12 月から稼働させている。この時タクマが納入したバイオマス発電プラントが順調に稼働していることから 2 基目の受注に至った。今回受注したプラントは山形県新庄市内に建設し、発電出力は 7,100kW。間伐材を主とする木質チップを燃料とし、FIT 制度を活用した発電事業を行う。運開は 2026 年 10 月の予定【(株) タクマ : 2023/08/22、山形新聞 : 2020/09/27】

<https://www.takuma.co.jp/news/2023/20230822.html>

<https://www.yamagata->

np.jp/feature/sdgs/initiatives/2020092701.php

■ 辻製油 (株) (三重) 会長の辻保彦氏が三重県県民功労者表彰を受章。同社は地元の間伐材をはじめ製材端材や樹皮、原木市場残材等を破砕し、木質チップに加工する「松阪木質バイオマス熱利用協同組合」に設立参画し、資源の有効活用に取り組んできた。2009 年には同協同組合のバイオマスボイラ工場が完成。チップ化された木材を燃やし、発生した蒸気を辻製油の食用油製造工場へと供給することで、石油換算で 9,000kL/年削減し、CO₂の発生を 23,000t 抑えることができた。導入後も改善を続け、現在では食用油製造工場が発生した余熱を再利用してお湯を作り、隣接しているうれし野アグリ (株) (三重) のトマト栽培用ビニールハウスの暖房に活用。10a あたり約 2,000 万円の売り上げを達成している。7 月 28 日に三重県松阪市内のホテルで開催された社会長の受賞記念祝賀会では地元関係者ら約 150 人が参集。多彩な功績を称えた【食品産業新聞社 : 2023/08/03、辻製油 (株)】

<https://www.ssnp.co.jp/soy/517669/>

<https://www.tsuji-seiyu.co.jp/incidental/biomass.html>

■ NEDO (神奈川)、「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」実施予定先を決定。5 月 8

日～6月8日まで公募していたもので、(1) 新たな燃料ポテンシャル(早生樹等)を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業に係る11件、(2) 木質バイオマス燃料(チップ、ペレット)の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業(今回の公募はチップ)に係る5件について審査。

その結果、(1)については8件、(2)については3件を実施予定先として決定。(1)の事業の実施期間は2023～2028年度、(2)は2023～2025年度まで。実施予定先および各テーマについては下記サイトより閲覧可【NEDO:2023/08/08】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100372.html

■長野県や塩尻市、民間が連携して森林資源の有効活用を目指す「信州F・パワープロジェクト」の中核を担っている征矢野建材(株)(長野)が、長野地裁松本支部に民事再生法の適用を申請(8月9日)。同プロジェクトでは長野県の豊富な森林資源を活用し、低迷する林業を産業として復活させるとして大規模木材加工施設と木質バイオマス発電所(発電出力14,500kW)を長野県塩尻市に整備。征矢野建材が2015年から大規模製材工場を、同社や九電みらいエナジー(株)(福岡)等が出資し設立したソヤノウッドパワー(株)(長野、以下「ソヤノ社」)が2020年から木質バイオマス発電所をそれぞれ運営。発電所の完成・商業運転開始が当初計画より約3年半遅れたため、先行して完成した木材加工施設の減価償却費負担が増加し、2018年征矢野建材は債務超過に転落。また同社はソヤノ社に木質チップを供給する義務契約を結んでいたため、全国的な燃料材不足等でチップを確保できなかったことにより、3億～4億/年に上る補償金支払い債務も発生。単独での経営改善は困難と判断した。(株)帝国データバンク(本社・東京)によると、征矢野建材の負債額は約65億円で今年度中県内最大額。綿半ホールディングス(株)(本店・長野)は8月9日、征矢野建材の製造機能やノウハウ等の承継は、綿半グループの木造建築のさらなる事業拡大に寄与するとして征矢野建材とスポンサー支援に関する契約を締結したと発表。民事再生計画で100%減資が完了すると同時に、新たに出資を行う方法で支援。雇用は維持する方針。長野県知事は10日の定例記者会見で、事業継続支援チームを立ち上げると発表【信濃毎日新聞、市民タイムスWEB:2023/08/10、PR TIMES:2023/08/09、ソヤノウッドパワー(株)、長野県】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023080901268>

<https://www.shimintimes.co.jp/news/2023/08/post-22831.php>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000152.000047889.html>

<https://soyano-woodpower.jp/company/>

https://www.pref.nagano.lg.jp/mokuzai/f_powerpj.html

■8月10日午後0時半前、キャノーラ油や菜種油等の植物油、精製済みの廃食油や灯油、軽油で動作可能な「ATG多燃料発電機」の開発・製造等をしている(株)ATGオペレーティングサービス(新潟県村上市)の敷地内で火災発生。積んであった木材やチップなどが焼け、周辺の枯れ草にも燃え広がった。村上署によると、発電設備とは別の屋外の焼却炉を使っており、木材等に飛び火したとみられる【新潟日報:2023/08/11】

<https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/263199>

■長野県信濃町のサウナ施設で火事。8月17日午後1時15分過ぎ、野尻湖から西に約4kmの山あいにあるサウナ施設「sherokuma sauna&cafe」の平屋のサウナ室から火が出ていると、利用者が消防に通報。消防車11台で消火にあたったところ、火はおおよそ3時間後に鎮火。約10㎡の平屋のサウナ室1棟が全焼したほか、別の棟に続く木製の通路なども焼けた。当時2人の利用者がいたが、屋外にいたためけがはなく、無事だった。サウナは薪を使って温めていたということで、警察は目撃者の話などから屋内から出火したと見て火事の原因を調査中。火事があつた施設は去年4月から営業し、貸切のプライベートサウナとして人気があつた【NHK NEWS WEB:2023/08/17、テレ朝 NEWS:2023/08/17】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagano/20230817/1010027849.html>

[https://news.tv-](https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000311912.html)

[asahi.co.jp/news_society/articles/000311912.html](https://news_society/articles/000311912.html)

■征矢野建材(株)(長野)の代理人弁護士が、信州F・パワープロジェクトの木質バイオマス発電施設を運営するソヤノウッドパワー(株)(長野)に対し、燃料チップ納入量の不足時に補償する契約の解消に向け、協議を申し入れたことを明らかに。事業を引き継ぐ方針を示す綿半ホールディングス(株)(本店・長野)がこの契約の解除を支援の前提条件としているため。弁護士は、民事再生手続きの開始が決定後、契約解除をソヤノ社に通知するとしている【信濃毎日新聞:2023/08/19】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023081900099>

2. ペレット関連情報

■（一財）自然エネルギー財団（東京）、「ベトナム木質ペレット大手のFSC偽装」について、同財団上級研究員の相川高信氏執筆のコラムをウェブに掲載。2022年10月、ベトナムのAn Viet Phat Energy社が販売した大量の木質ペレットについて、故意に虚偽表示を行っていたとしてFSCがブロック。同社の認証は取り消され、以後3年半、FSCへの申請ができなくなっている。コラムではFSCの仕組みについて詳しく解説するとともに、FSCをFIT制度で活用することの様々な問題点についても指摘。こうした問題に対処するため、欧州を中心に発達してきたGGL（Green Gold Label）やSBP（Sustainable Biomass Program）等のバイオマスに特化した認証制度を積極的に活用するとともに、FIT制度において木質バイオマスの持続可能性を確保するため必要と思われる措置についても提言している【（一財）自然エネルギー財団：2023/07/24】

<https://www.renewable-ei.org/activities/column/REupdate/20230724.php>

■出光グリーン・エネルギー・ベトナム社（ベトナム）が、ベトナム中南部ビンディン省でブラックペレットの新工場の竣工式を開催（7月28日）。在ダナン日本国総領事館の矢ヶ部総領事も出席。同社は出光興産（株）（東京）がブラックペレット（商品名「出光グリーンエナジーペレットTM」）の大型商業プラントを同国に建設するにあたり、既存の木質ペレットの製造会社へ出資し新会社として設立したもの。プラントも既存の木質ペレット製造工場の敷地内に新プラントを建設。「出光グリーンエナジーペレット」は主にアカシアの端材や製材残渣を原料に使用。一般に普及している木質ペレットを半炭化した高カロリー燃料で、既存の石炭燃焼設備を改造することなく、そのまま混焼が可能。工場の生産能力は12万t/年。2030年までに200万t/年の供給体制構築を目標としており、2030年までの中間目標として「3年以内に30万t/年」の供給体制構築を目指し、ベトナムに続くマレーシア・インドネシアでの生産プロジェクトを今後進めていく予定【NNA ASIA：2023/07/31、在ダナン日本国総領事館：2023/08/08、出光興産（株）：2021/10/21】

<https://www.nna.jp/news/2548349>

[https://www.danang.vn.emb-](https://www.danang.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00318.html)

[japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00318.html](https://www.danang.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00318.html)

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2021/211021.html>

■シンガポール資本のエクイス・デベロップメント・ピーティエーイー・リミテッド（以下、「エクイス」と東北電力（株）（宮城）が新潟県聖籠町東港に建設しているバイオマス発電所が進捗率50%に到達。同発電所は主に東南アジアから輸入する木質ペレットとPKSを燃料に使用し、出力は5万kW。2021年8月、エクイスが設立した「新潟東港バイオマス発電合同会社」に東北電力が出資参画。出資比率はエクイスが80%、東北電力が20%。東北電力はバイオマス発電設備の設計・建設時におけるオーナーズエンジニアリング業務や、営業運転を開始した後の運転・保守業務を担当する。同発電所の発電設備一式の設計、機器資材調達、建設工事、試運転までのEPC（設計・調達・施工）サービス業務は東洋エンジニアリング（株）（千葉）が一括請負で受注。木質ペレットを燃焼させるボイラなどの主要機器は搬入済み。2024年10月運開予定【新潟日報：2023/07/28、東北電力（株）：2021/08/26、メガソーラービジネス：2021/08/30】

<https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/255183>

[\[epco.co.jp/news/normal/1221531_2558.html\]\(https://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1221531_2558.html\)](https://www.tohoku-</p></div><div data-bbox=)

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/01971/?ST=msb>

■ベトナム、2023年上期の木質ペレット輸出量は12%減。ベトナム林産物協会（VIFOREST）によると、輸出量は前年同期比12.3%減の約200万t、輸出額は8.2%減の3億2,500万米ドルとなったが、日本向けは増加したとのこと【Asean産業データ&レポート：2023/08/16】

<https://ashu-aseanstatistics.com/news/201826-81471919220>

■中部電力（株）（愛知）、丸紅（株）（東京）、テラスエナジー（株）（東京、旧・SBエナジー）の3社が出資する特別目的会社（SPC）の愛知蒲郡バイオマス発電合同会社が、愛知県蒲郡市浜町工業団地内に「愛知蒲郡バイオマス発電所」を建設。8月9日から営業運転開始。SPCは2019年1月に設立し、出資比率は中部電力が48.5%、丸紅子会社の丸紅クリーンパワー（株）

(東京)が48.5%、テラスエナジーが3%。発電所は主に東南アジア産の木質ペレット、インドネシア産のPKSを燃料とし、定格出力は50MW、年間発電量は一般家庭11万世帯分に相当する約3.4億kWhの見込み。発電した電力はFITに基づき中部電力パワーグリッド(株)(愛知)に売電する。ボイラはオーストリアのアンドリッツ製、発電設備はドイツのシーメンス製、施工は東洋エンジニアリング(株)(千葉)が担当【メガソーラービジネス：2023/08/17、丸紅(株)：2023/08/09】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/03574/?ST=msb>

<https://www.marubeni.com/jp/news/2023/release/00083.html>

■イーレックス(株)(東京)、8月上旬に沖縄地方で発生した台風第6号による影響で、同社グループの沖縄うるまニューエナジー(株)(沖縄)が運営する中城バイオマス発電所(沖縄、発電出力49MW)を一時停止していたことを公表。沖縄電力より解列指令が発令され、8月1日22時45分より発電停止。翌2日の21時21分より運転を再開【イーレックス(株)：2023/08/02、2023/08/10】

<https://www.erec.co.jp/news/information/2502/>

<http://www.erec.co.jp/news/information/2504/>

■(株)松田木材(富山)、県産スギを使った個室サウナ(プライベートサウナ)を発売。個室サウナは2~3人用で、標準サ

イズは幅1.3m、奥行き1.8m、高さ2m。強度を持たせるため正面だけヒノキの厚い木材を使い、その他の三面は魚津市産のスギ材を用いた。スギは断熱性が高く、一度温まると冷めにくい保温効果がある。使うスギ材は需要の少ない直径三十センチ以上の木材(大径木)。有効活用して森林資源の循環につなげる。熱源には社長が高岡市出身の(有)シモタニ(岐阜)製のペレットストーブをオプションで用意。大径木を細かく砕いて作ったペレットを燃やして使うため、こちらも森林資源の有効活用につながる。投入量を調節し、室内の温度を自由に変えられる。サウナ本体の価格は税込み385,000円。熱源や設置の費用等含めると約60万円程度。最近流行りのたる型サウナ(バレルサウナ、200万円程度)の1/3程度の初期費用で済み、広い庭がある富山の住宅地での普及に期待。松田社長は「地元で育った木を地元で使い、サウナで県民の健康づくりにも役立てたい」と、「一家に一台」を目指していく【中日新聞：2023/08/18】

<https://www.chunichi.co.jp/article/750853>

■飛騨高山グリーンヒート合同会社(岐阜)、今年9月を目標にペレット製造の自社工場を建設へ。ペレットは自社発電用とストーブ用およびボイラ用に分けて製造する予定。販売価格・品質等は後日ホームページにて公開するとのこと【飛騨高山グリーンヒート合同会社：2023/8月】

<https://www.hidagreenheat.org/>

3. イベント情報(国内)

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■(公財)SOMPO環境財団「市民のための環境公開講座2023(4)日本の森って、どんな森? 所有と利用と、その先へ」
2023年9月6日(水)

オンライン

<https://www.sompo-ef.org/kouza/kouza2023/>

■(株)新社会システム総合研究所「進むバイオ燃料の利用拡大 国内外動向と我が国の政策」

2023年9月12日(火)

SSK セミナールーム(東京都港区)

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=23469>

■RX Japan(株)スマートエネルギーWeek 秋「脱炭素経営 EXPO」
2023年9月13日(水)~15日(金)

幕張メッセ(千葉県千葉市)

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp.html>

■RX Japan(株)スマートエネルギーWeek 秋「第1回グリーンファクトリーEXPO 秋 ~脱炭素・サステナブル工場の実現へ~」

2023年9月13日(水)~15日(金)

幕張メッセ(千葉県千葉市)

<https://www.fiweek.jp/autumn/ja-jp/about/gfe.html>

■フォレスターギャザリング 2023@本山町

2023年9月16日(土)～17日(日)

高知県本山町

<https://www.forestergathering.com/>

■HIDA OUTDDOR FREAKS「アウトドアイベント『ヒダ アウト
ドアフリーク』」

2023年9月24日(日)

フレスポ飛騨高山(岐阜県高山市)

<https://newscast.jp/news/6352371>

■(一社)日本能率協会「九州エネルギー技術革新 EXPO 2023」

2023年9月26日(火)～27日(水)

マリンメッセ福岡 B館(福岡県福岡市)

<https://www.jma.or.jp/infra/energy/outline/index.html>

■NPO 法人農都会議「地域の脱炭素化 Part II」勉強会「元気な
社会を創る脱炭素と技術～気候危機の現状から地域活性化ま
で 世界が注目する脱炭素のいまがわかる～」

2023年9月27日(水)

オンライン開催(Zoomなど利用)

<https://blog.canpan.info/bioenergy/>

■(一社)日本木工機械工業会「日本木工機械展 Mokkiten
Japan 2023」

2023年10月5日(木)～7日(土)

ポートメッセなごや(愛知県名古屋)

<https://mokkiten.com/>

■REIF ふくしま 2023 運営事務局「第12回ふくしま再生可能
エネルギー産業フェア(REIF ふくしま 2023)」

2023年10月12日(木)～13日(金)

ビッグパレットふくしま(福島県郡山市)

<https://reif-fukushima.jp/>

■(一社)日本能率協会「北海道エネルギー技術革新 EXPO
2023」

2023年10月18日(水)～19日(木)

アクセスサッポロ(北海道札幌市)

https://www.jma.or.jp/infra/energy/outline/index_h.html

■諏訪圏工業メッセ 2023

2023年10月19日(木)～21日(土)

岡谷市民総合体育館/テクノプラザおかや(いずれも長野県岡
谷市)

<https://suwamesse.jp/>

■(一社)吉野と暮らす会「よしの木フェス 2023」

2023年10月21日(土)

吉野材センター(奈良県吉野郡吉野町)

<https://yoshinochoboku.com/woodfestival/>

■兵庫県立農林水産技術総合センター「森林林業フォーラム
2023『SDGs×森林林業技術センター』

2023年10月26日(木)

姫路市文化コンベンションセンター アクリエひめじ(兵庫県
姫路市)

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20230825_13760.html

■(株)新社会システム総合研究所「気候変動対応が主流化す
るなか 企業は脱炭素シナリオをどう描くか」

2023年10月31日(火)

SSK セミナールーム(東京都港区)

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=23453>

■(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所「シンポジウム
「森林が主導するネイチャーポジティブ～生物多様性の研究
と実践の最前線～」

2023年10月31日(火)

Webexによるオンライン開催

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231031symposium/index.html>

■(一社)林業機械化協会「2023 第46回全国育樹祭開催記念
行事森林・林業・環境機械展示実演会」

2023年11月12日(日)～13日(月)

笠松運動公園(茨城県ひたちなか市)

<https://www.rinkikyo.or.jp/>

■RX Japan(株)関西スマートエネルギーWeek 秋「脱炭素経
営 EXPO」

2023年11月15日(水)～17日(金)

インテックス大阪(大阪)

<https://www.decarbonization-expo.jp/osaka/ja-jp.html>

■(一社)日本能率協会「Japan Home & Building Show 2023」

2023年11月15日(水)～17日(金)

東京ビッグサイト東展示棟(東京都江東区)

<https://www.jma.or.jp/homeshow/tokyo/>

■(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所「シンポジウム「森林が主導するネイチャーポジティブ～生物多様性の研究と実践の最前線～」

2023年12月6日(水)

Webexによるオンライン開催

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2023/20231031symposium/index.html>

■(一社)サステナブル経営推進機構、「エコプロ2023」

2023年12月6日(水)～8日(金)

東京ビッグサイト東ホール(東京都江東区)

<https://messe.nikkei.co.jp/ep/>

■脱炭素チャレンジカップ事務局「脱炭素チャレンジカップ2024」

2024年2月6日(火)

伊藤謝恩ホール(東京都文京区)

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■RX Japan(株)「第9回【国際】バイオマス展【春】」

2024年2月28日(水)～3月1日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/hub/ja-jp/about/bm.html>

■RX Japan(株)スマートエネルギーWeek 春

2024年3月1日(水)～3日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

◎2024NEW 環境展/2024 地球温暖化防止展

2024年5月22日(水)～24日(金)

東京ビッグサイト(東京都江東区)

<https://www.n-expo.jp/>

4. イベント情報(海外)

◎Svebio Fuel Market Day 2023

2023年9月6日(水)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebio-fuel-market-day-2023/>

◎Advanced Biofuels Conference 2023

2023年9月20日(水)～21日(木)

イエーテボリ(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/advanced-biofuels-conference-2023/>

■ADBA Northern Ireland Conference 2023

2023年9月7日(木)

ベルファスト(北アイルランド)

<https://adbioresources.org/events/northern-ireland-conference-2023/>

■Webinar 6 - Critical role of modern bioenergy for green cooking

2023年9月26日(火)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/737/47/Webinar-6-Critical-role-of-modern-bioenergy-for-green-cooking/>

■ADBA Scottish Conference 2023

2023年9月19日(火)

エディンバラ(スコットランド)

<https://adbioresources.org/events/scottish-conference/>

■Transport Biofuels

2023年9月27日(水)～28日(木)

ウオフフ(ポーランド)

<https://kib.pl/en/konferencja-2/>

■ Biogas PowerON

2023年9月27日(水)～28日(木)

ハンブルグ(ドイツ)

<https://fortesmedia.com/biogas-poweron-2023,4,en,2,1,26.html>

■ WASTECON 2023

2023年9月27日(水)～29日(金)

マサチューセッツ州ボストン(USA)

<https://swana.swoogo.com/wastecon2022/>

◎ Bioenergy Heating International Training Seminar

2023年10月2日(月)～5日(木)

リンツ(オーストリア)

<https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-heating>

■ Bioenergy Pavilion 2023

2023年10月4日(水)～6日(金)

グレート・ノイダ(インド)

<https://biogas-india.com/bio-energy-pavilion-2023/>

■ IGEN 2023 – International Greentech & Eco Products Exhibition & Conference

2023年10月4日(水)～6日(金)

クアラルンプール(マレーシア) / オンライン

<https://www.igem.my/>

■ UK Green Gas Day 2023

2023年10月11日(水)

ソリフル(UK)

<https://www.r-e-a.net/events/uk-green-gas-day/>

■ Biomass PowerON 2023

2023年10月11日(水)～12日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2023,4,en,2,1,25.html>

■ USIPA 2023 Conference

2023年10月16日(月)～18日(水)

フロリダ州マイアミ(USA)

<https://theusipa.org/2023-conference>

■ European Biomethane Week 2023

2023年10月24日(火)～25日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.europeanbiogas.eu/european-biomethane-week-2023/#:~:text=4th%20week%20of%20October%20across,October%3A%20Flagship%20event%20in%20Brussels>

■ All Energy Australia 2023

2023年10月25日(水)～26日(木)

メルボルン(オーストラリア)

<https://www.all-energy.com.au/en-gb.html>

■ International Bioenergy and Bioproducts Conference (IBBC)

2023年11月5日(日)～8日(水)

ジョージア州アトランタ(USA)

<https://tappi-ibbc.org/>

■ National Carbon Capture Conference & Expo

2023年11月7日(火)～8日(水)

アイオワ州デモイン(USA)

<https://nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■ Smart City Expo World Congress

2023年11月7日(火)～9日(木)

バルセロナ(スペイン)

<https://www.smartcityexpo.com/>

■ ECOMONDO 2023

2023年11月7日(火)～10日(金)

リミニ(イタリア)

https://unb.ecomondo.com/visit-2023/?utm_source=referral&utm_medium=banner&utm_campaign=Woodcote+Media+Publications

■ EIF 2023 – World Energy Congress and Expo

2023年11月15日(水)～17日(金)

イスタンブール(トルコ)

<https://www.worldenergy-congress.com/>

■The Future of Biogas Europe Summit 2023

2023年11月22日(水)～23日(木)

アムステルダム(オランダ)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

■The European Bioenergy Future 2023 (EBF2023)

2023年11月28日(火)～30日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/385-the-european-bioenergy-future-2023-ebf2023.html>

■2023 UN Climate Change Conference (UNFCCC COP 28)

2023年11月30日(木)～12月12日(火)

ドバイ(アラブ首長国連邦)

<https://sdg.iisd.org/events/2022-un-climate-change-conference-unfccc-cop-28/>

■Progress in Manure & Digestate

2023年12月5日(火)～7日(木)

オンライン

<https://ibk-biogas.com/schedule/online-conference-progress-manure-digestate-treatment/>

■bio 360 Expo 2024

2024年1月24日(水)～25日(木)

ナンテ(フランス)

<https://bio360expo.com/>

■Progetto Fuoco

2024年2月28日(水)～3月2日(土)

ヴェローナ(イタリア)

<https://www.progettofuoco.com/en/>

■2024 International Biomass Conference & Expo

2024年3月4日(月)～6日(水)

ヴァージニア州リッチモンド(USA)

<https://2024->

[ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://www.fewbbconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

■WFES 2024 – World Future Energy Summit

2024年4月16日(火)～18日(木)

アブダビ(アラブ首長国連邦)

<https://www.worldfutureenergysummit.com/>

■BOILER 2024 | ABMA Boiler Technology Conference & Expo

2024年5月1日(水)～3日(金)

コロラド州デンバー(USA)

<https://abmaboilerexpo.com/>

■Waste Expo

2024年5月6日(月)～9日(木)

ネバダ州ラスベガス(USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

■Carbon Capture & Storage Summit

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Biodiesel Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2024年6月10日(月)～12日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://few.bbiconferences.com/Biodiesel.html>

■North American SAF Conference & Expo

2024年9月10日～12日

ミネソタ州セント・ポール(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

5. 2023 年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報（都道府県順）

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【北海道】

◇足寄町「令和5年度足寄町木質ペレット燃焼機器導入補助金」
https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kurashi/about-town/hojyokin/page_4.html

【山形】

◇高島町「令和5年度高島町再生可能エネルギー設備導入事業費補助金」
<https://www.town.takahata.yamagata.jp/soshikiichiran/seikatsukanikyoka/2/2/saiene.html>

【長野】

◆須坂市「須坂市ペレットストーブ等設備導入費補助金」
<https://www.city.suzaka.nagano.jp/contents/item.php?id=5965ae44c2d27>

◆茅野市「令和5年度ペレットストーブ・ペレットボイラーの購入に係る補助金」
<https://www.city.chino.lg.jp/soshiki/nourin/perettohojokin.html>

◇白馬村「令和5年度薪ストーブ、ペレットストーブ購入費助成」
https://www.vill.hakuba.lg.jp/gyosei/nogyo_shoko_kensetsu_nyus

[atsu/nogyo/pelletstovekonyujosei/3622.html](https://www.vill.hakuba.lg.jp/gyosei/nogyo_shoko_kensetsu_nyus)

◆原村「原村森のエネルギー推進事業補助金」
<https://www.vill.hara.lg.jp/docs/55885.html>

◇松本市「松本市ペレットストーブ購入事業補助金」
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/74/3181.html>

【兵庫】

◇丹波篠山市「令和5年度【後期】薪ストーブ等設置補助金」
https://www.city.tambasayama.lg.jp/soshikikarasagasu/nomiyakokankyoka/earth/r5_woodstove.html

※対象は薪や木質ペレット等の木質バイオマスを燃料とするストーブ

【鳥取】

◇岩美町「家庭用発電設備等導入推進補助金」
<https://www.iwami.gr.jp/2699.htm>

【高知】

◇梶原町「令和5年度梶原町新エネルギー等活用施設設置補助金」
<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/town/kakuka/seibi/2020-06-19kankyo.html>

【熊本】

◇南小国町「ペレットストーブ等購入補助金」
<https://www.town.minamioguni.lg.jp/joseikin/>

6. 公募等情報（締切順）

■福島県「福島県における再生可能エネルギーの導入促進のための支援事業費補助金（地域活用型再生可能エネルギー導入支援事業）について」

公募期間 2023年5月10日（水）～9月6日（水）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025c/katsuyo-r5.html>

■（公社）日本フィランソロピー協会「TOYO TIRE グループ環境保護基金」

募集期間 2023年6月30日（金）～9月29日（金）
<https://www.philanthropy.or.jp/toyotires/2024/>

■（公財）滋賀県産業支援プラザ「令和5年度省エネ・再エネ等設備導入加速化補助金」

4次締切：9月29日（金）

最終締切：10月31日（火）

<https://www.shigaplaza.or.jp/hojokin-co2-230630/>

■脱炭素チャレンジカップ事務局「『脱炭素チャレンジカップ2024』エントリー募集中」（団体エントリー）

応募締切 2023年9月29日（金）

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■農水省「令和5年度バイオマス産業都市構想の提案を募集」
募集期間 2023年6月15日（木）～10月31日（火）

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/230615.html

■兵庫県「『ひょうごバイオマス eco モデル』応募受付中!!」

応募締切 ～2023年10月31日（火）

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20230801_13623.html

■脱炭素チャレンジカップ事務局「『脱炭素チャレンジカップ2024』エントリー募集中」（アイデア賞）

応募締切 2023年11月30日（木）

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

■新潟県「令和5年度新潟県再生可能エネルギー設備導入促進事業補助金（二次公募）」

公募期間 2023年6月28日（水）～12月15日（金）

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/sogyosuishin/1356915935143.html>

■奈良県「令和5年度地域エネルギー資源活用支援事業補助金」
募集期間 2023年6月30日（金）～12月22日（金）

<https://www.pref.nara.jp/55628.htm>

■広島県「令和5年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 2023年12月28日（木）まで

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■（公社）日本フィランソロピー協会「SDGs貢献プロジェクト」

受付 2023年12月1日（金）～31日（日）

<https://www.philanthropy.or.jp/jt/>

■静岡県浜松市「浜松市木質バイオマス設備導入支援事業費補助金」

受付期間 2023年4月21日（金）～2024年1月31日（水）

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shin-ene/new_ene/mokushitsuhojokin.html

■栃木県「今すぐ始められる脱炭素の取組を紹介します！（脱炭素普及啓発事業）」

募集期間 2023年4月12日（水）～2024年2月中旬まで

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/hukyukeihatsu.html>

■長野県塩尻市「塩尻市木質バイオマス利用設備設置費等補助金（ペレットストーブ、ペレットボイラー用燃料）」

申請書受付期間 2023年4月3日（月）～2024年3月15日（金）

<https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/30/2997.html>

■兵庫県宍粟市「宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業補助金（木質バイオマス燃料製造設備導入費用助成）」

受付期間 2023年4月3日（月）～2024年3月15日（金）

<https://www.city.shiso.lg.jp/soshiki/sangyo/rinngyousinnkou/tantoujyouhou/shinenerugi/1515747696234.html>

■農水省大臣官房環境バイオマス政策課「農林漁業バイオ燃料法に基づく事業計画、支援措置（固定資産税の特例等）」

固定資産税の特例の適用期限 ～2024年3月31日（日）まで

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■北海道「林業・木材産業改善資金」

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料普及拡大推進事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=24564>

■富山県南砺市「南砺市木質ペレット燃料高騰対策事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=25479>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syouto-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■神奈川県横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyou-koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

※融資制度

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00006264.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉縣市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

■（独）農林漁業信用基金「災害で被災された方の支援について（新型コロナウイルス感染症による影響を含む）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/shien/index.html>

■（独）農林漁業信用基金「新たに林業・木材産業の事業を立ち上げる方（新たに開始する方、他産業から参入する方）への支援について（林業・木材産業の創業等支援保証）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/default2022042214551.html>

■（独）農林漁業信用基金「林業・木材産業の複合経営を行う方への支援について（林業・木材産業複合経営化支援保証）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/default2022042214150.html>

■NEDO「2023年度第2回『新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業』（新エネ中小・スタートアップ支援制度）に係る公募について」【予告】

公募期間 2023年9月上旬～2023年11月上旬の予定

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100422.html